

平成26年度 第2回産業廃棄物処理施設専門委員会における議事記録

(第Ⅱ部 埼玉県環境整備センター)

日 時	平成26年11月27日(木) 13:30~16:55
場 所	(一財)全電通埼玉会館あけぼのビル501会議室 (さいたま市浦和区岸町7-5-19)
委員名	池口委員長、荒井委員、遠藤委員、小田委員、小野委員、河村委員 木村委員、藤吉委員
県担当者	棚沢副部長 (資源循環推進課) 豊田課長、河原塚副課長、小ノ澤主幹、福嶋主査、新倉主査、 河島主任 (産業廃棄物指導課) 葛西課長、堀口主幹、稲原主査、岡本主査、斎藤主任、 鶴谷主任、牧嶋主任、小西主任、占部主任 (環境整備センター) 須藤所長、清水担当課長、松井担当課長
傍聴者等	・越谷市 1名 ・傍聴者 0名

【1. 一般廃棄物処理施設及び産業廃棄物処理施設変更許可申請について】	
質問・意見	説明、回答
1 欠席した委員に対して新たに現地調査を実施するのか? (委員)	実施しない。(事務局)
2 今回の増設で回転円板を選んだ理由は何か。埋立地は水質が変化していくので、今後の埋立計画を考えて水処理施設を設計しないと、維持管理費が非常に高くなる。 (委員)	昭和58年当時に施設の検討が行われ、回転円板が一番良いと結論付けられた。平成7年の建設時も既存施設の処理実績が良いことから再度回転円板方式を採用し、回転円板は350/日分増設し、それ以外の施設は将来を見据えて700 m ³ /日分増設をした。今回の申請では平成7年当時の計画どおりの生物処理施設を設置するとした。 (事務局)
実際に内部貯留をするかしないかで、浸出係数は変わってくるが、強降雨時と弱降雨時の場合で浸透する雨量はまったく違う。資料3-2を見てみると、雨量に対して浸出水量が合っていない。強降雨時と弱降雨時との対応をして、調整槽や処理の計算をする必要がある。 (委員)	現在の1,2系の水処理施設は年数が経っているので、その更新、あるいは処理方法を含めて検討を進めているところである。委員の指摘もふまえ、今後十分検討していきたい。 (事務局)

3	<p>塩沢川の水質について、資料 1-2 のデータは現在の状況を調べただけのもので、アセスとは関係がないのか？</p> <p>アセスで放流水の影響を見るのであれば、放流地点の上流と下流を調査した方が良いと考えるが、どうか？</p> <p>(委 員)</p>	<p>資料 1-2 は放流地点直下（放流後）と上流（放流前）を比較するため、参考に載せたもので、アセスとは関係ない。</p> <p>(事務局)</p> <p>放流水の予測は、現況水質に施設設計上限水質を付加して行っており、より厳しい側で行っているが、指摘のとおり調査は放流の上下流で行った方が、影響がより分かるので、その点については反省点である。</p> <p>(事務局)</p>
4	<p>住民の意見への回答は、通常どのように行っているのか？</p> <p>また、ホームページ等に載せるものなのか？</p> <p>その対応で不満はこないか？</p> <p>(委 員)</p>	<p>直接回答はしない。</p> <p>いただいた意見は許認可の判断に反映させるが、ホームページにも掲載しない。</p> <p>意見の提出の機会の付与を法律で規定しているという、意見書のもつ性格を説明している。意見書とは全く別の形で住民の方から説明を求められた場合には別の形で対応していく。</p> <p>(事務局)</p>
5	<p>埋立地が稼働してかなりの期間が経っているので、処理原水が当初の計画水質との違いによる修正が入るのではないのか？現状と計画水質とを比較するデータを示すことはできるか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>処理原水と排水基準とを比較すると、埋立終了後の埋立地でも、BOD が夏場においてはほとんど基準をクリアできていない状況にある。守るべき水質と経費との関係については事業者側と良く話し合いをして良い方向にしていければと思っている。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>埋立中の浸出水は BOD が高いが、埋立終了後は BOD が下がってくるので、回転円板に生物膜が付着しなくなってくる。凝集沈殿のみで処理可能な場合もある。水質をきちんと検討して施設の設計案を立てないと、水質はクリアできるだろうが維持管理費が高くなってしまう。(委員)</p>	<p>将来的には、浸出水処理施設の 1, 2 系の更新も含めて、委員の意見も踏まえてより効率的なものになるよう検討を進めていく。ただ、現状では浸出水処理は続けていく必要があるため、3系の増設が必要となる。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>協定値はクリアできるが、過大設備のように思う。何故この施設(生物処理施設)であるのか根拠となるデータを示して欲しい。</p> <p>(委員長)</p>	<p>— (後日、資料を提出することとした。) —</p>

6	<p>騒音において、アセスだと3点の測定であったのだが、資料1-2を見ると、2点の測定であるが何故か？ (委員)</p>	<p>資料1-2の測定点は環境整備センターに適用される公害防止協定に基づいた地点であり、アセスはこれに資源循環工場に適用される運営協定に基づいた地点を追加したものである。 (事務局)</p>
	<p>処分場としては2点の測定だけで良いのでは？ (委員)</p>	<p>御指摘のとおり2点で十分だが、資源循環工場の運営を進めるにあたってのバックデータとするため、1地点追加して評価を行ったものであった。 (事務局)</p>
7	<p>維持管理をしていくうえで、基準をクリアしていない場合は原水槽（調整槽）に戻すことを徹底していただきたい。当初計画時の原水（浸出水）の水質と現在の水質の乖離を確認してみてもどうか。 (委員)</p>	
8	<p>各埋立地の水質（浸出水）の数値は把握できるのか？ (委員)</p>	<p>把握できる。 (事務局)</p>
9	<p>資料3-1におけるデータは埋立中のものか、埋立終了後のものか？ 内部保有水が多いように見えるが、埋立終了後に何か問題はないのか？ (委員)</p> <p>内部保有水と内部貯留水は違うものなのか？ (委員)</p> <p>浸出係数でC1は実測値（0.66）を用いているが、C2は要領の計算値（0.4）を用いている理由は何か？ (委員)</p>	<p>両方入っている。計算浸出水量は、式3-1で計算したものである。 水抜き井を設置する等の対策を試験的に実施している。また、覆土の一部開削も効果があると考えている。 (事務局)</p> <p>本資料では、意図せずに中間覆土間に残留したものを内部保有水とし、水処理や調整槽の貯留が追い付かず埋立地に残ってしまったものを内部貯留水としている。 (事務局)</p> <p>最新の係数を求めるため、当時埋立中であった3号埋立地のデータを用いたが、3号埋立地の埋立中は構造上埋立中と埋立終了後の浸出水とを区別して測定することができないので、実測値を出せないためである。 (事務局)</p>

10	<p>埋立地から調整槽へ向かうバルブは各埋立地に1つずつあるものなのか？</p> <p>貯留水の水位はモニタリングしていないので、バルブを開けるタイミングはどのようにしているのか？</p> <p>どこかで水位を確認していくことが、災害対策等でも必要ではないかと思うので検討してはどうか。</p> <p>(委員)</p>	<p>バルブは1つずつある。</p> <p>水位の確認方法はない。</p> <p>開けるタイミングは調整槽の水位が下がったことを確認し、徐々に開けている。</p> <p>(事務局)</p>
11	<p>これまでの水質関連の経時変化、災害時の対応等が課題として残っている。</p> <p>意見を事務局でまとめて、文書の形で各委員に報告することで対応してはどうか？</p> <p>今回で委員会を終わりにするかはその報告された文書を見た上で判断してはどうか？</p> <p>(委員長)</p>	<p>異議なし(他委員)</p>